

## 平成24年度島根県公立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要について

### 【全般】

問題作成にあたっては、中学校学習指導要領に沿い、中学校の日頃の学習で積み上げられた基礎学力を計るものであるとともに、単なる知識だけではなく、思考力、判断力、表現力等を問うものとなるよう配慮した。

学力検査の平均点と得点分布状況は別紙のとおりである。5教科の平均点は260.5点で、昨年度に比べて24.2点下がった。

平均点が下がった教科は国語（-10.3点）社会（-15.1点）理科（-6.2点）であり、上がった教科は、数学（+1.4点）、英語（+6.0点）である。

### 【国語】

基礎的・基本的な知識については概ね定着しており、中学校での学習の成果がうかがえる。一方、第二問題（説明的な文章）及び第三問題（文学的な文章）の問題文が長かったこと、記述力を求める設問が増えたことにより、長めの文章をすばやく読みとる力に個人差がみられた。今後、文章全体を読みこなす力、条件を踏まえて的確に表現する力の育成が望まれる。

### 【社会】

地理的分野・歴史的分野・公民的分野とも基礎的・基本的な知識は概ね身につけているものの、資料等から読み取った情報を基に、社会的事象の意味、意義などを多面的多角的に考察し記述する思考力・判断力・表現力については課題が残った。今後とも社会に対する関心を高め、言語活動の充実等によりこれらの力を伸ばしていくことが望まれる。

### 【数学】

数と式の計算、場合の数と確率、図形に関する定理などの基礎的・基本的な知識や技能に関しては概ね定着しており、学習の成果がうかがえる。一方で分数を含む式などの少し複雑な計算、比や割合の意味の理解と利用、問題文から必要な情報を読み取って処理をしたり、思考を深めたりすることなどには課題があり、数学的に処理する力や考察し表現する力の育成が望まれる。

### 【理科】

第一分野、第二分野とも基礎的・基本的な知識・技能の事項については正しく理解されており、正答率が高かった。一方、観察・実験の結果を整理し解釈する問題や作図の問題、さらに少し複雑な化学反応式を問う問題や文章記述で表現する問題の正答率は低かった。様々な自然科学事象に対し目的意識をもって観察・実験を主体的に行い、その結果を図、表、グラフ、文章等の多様な形式で整理して分析し考察する力の育成が望まれる。

### 【英語】

放送による英語の聞き取り、英文と資料の読み取り、基本的な語句・表現の問題については、正答率が高く、学習の成果がうかがえる。重要なことごとについて正確に読み取る力、身近な会話場面で表現する力はやや不足している。一方で、身近な話題について、理由をそえて書こうとする態度は向上している。今後、語彙、表現、文構造に注意しながら、重要な部分について正確に読む力や、身近な会話場面において英語で表現する力を一層育成することが望まれる。